

1 この科目の構成について

教科	地理歴史科	科目	地理探究		単位	3	単位
対象コース	一貫・進学・総合	コース	対象クラス	2	年	1理, 2理, 3理, 4組	
使用教科書	新詳地理探究（帝国書院）新詳高等地図（帝国書院）						
使用副教材	サクシード地理（啓隆社）						

2 この科目の学習目標・学習方法について

学習目標：この科目を学習して何を身につけてほしいのか							
私達の世界は、どのような資源や産業の生産活動により成立しているのでしょうか。そして、その生産活動は、どのような変化を遂げるのでしょうか。資源・産業に関する知識を深め、今までの変化、これからの変化を読み取る力を身につけて下さい。私達の世界は、さまざまな指標を用いることにより、さまざまな地域に区分されています。指標である自然・産業・人種・民族・国家に関する知識を深め、地域の特色及び地域間に共通するもの・相違するものを把握する力を身につけて下さい。私達の世界の現在と未来を正しく把握するために、情報を集める力・情報を分析する力を身につけて下さい。							
学習方法：この科目を学校と家庭でどのように学習すればよいのか							
(1) 学校							
1) 地理情報の活用方法、世界観の変化、地球上の位置、時差、世界図の図法・種類、一般図と主題図、地域調査を学習する。							
2) 地形の種類・成因・分布、陸水と海洋、大気循環、雨温図とハイサーグラフ、世界の気候区分・植生・土壌を学習する。							
3) 日本の地形・気候、自然災害と防災、オゾン層の破壊・地球温暖化・森林破壊・砂漠化・酸性雨等の環境問題を学習する。							
4) 大学共通テスト対策として、重要語句の整理と深い理解が必要です。							
(2) 家庭							
1) 復習は必要です。授業で理解できなかった用語や内容はその日のうちに教科書などで確認しておきましょう。							
2) 新聞やテレビのニュースを必ず見ましょう。問題を解く際に力強い味方になります。常識で解ける問題もある。							
3) 模試の見直しの際、模範解答の解説書を熟読し、「正解の根拠・地図や統計読解のテクニック」を理解し覚えましょう。							

3 この科目の評価規準と評価方法について

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
評価規準 (内容のまとめごと)	世界の人々の特色ある生活文化を基に、人々の生活文化が地理的環境から影響を受けたり、影響を与えたりして多様性をもつことや、地理的環境の変化によって変容することなどについて理解している。 世界の人々の特色ある生活文化を基に、自他の文化を尊重し国際理解を図ることの重要性などについて理解している。 世界各地でみられる地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口・食料問題及び居住・都市問題などを基に、地球的課題の各地で共通する傾向性や課題相互の関連性などについて大観し理解している。	世界の人々の生活文化について、その生活文化がみられる場所の特徴や自然及び社会的条件との関わりなどに着目して、主題を設定し、多様性や変容の要因などを多面的・多角的に考察し、表現している。 世界各地でみられる地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口・食料問題及び居住・都市問題などの地球的課題について、地域の結び付きや持続可能な社会づくりなどに着目して、主題を設定し、現状や要因、解決の方向性などを多面的・多角的に考察し、表現している。	生活文化の多様性と国際理解について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。 地球的課題と国際協力について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。
評価方法	定期考査／提出課題／発問評価	定期考査／提出課題／発問評価	提出課題／発問評価

4 この科目の学習計画について (改行は Alt + Enter)

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか				評価の観点		
学期	月	学習の項目	学習の内容	知	思	主
1	4	第1章 自然環境 序節 地球環境と人間	1 さまざまな地図 2 時差			
		1 地形 	1 地形の成因と地球表面の起伏 2 地球規模の大地形 3 河川流域と海岸にみられる小地形 4 そのほかの特徴的な小地形 【第1回考査】	●	●	●
	5		地球表面には、地球規模の大地形や、河川が形成した小地形などのさまざまな地形がみられる。それぞれの地形には、どのような特徴や成因があり、人間活動とどのように関わっているのだろうか。			
	6	2 気候  	1 気候の成り立ち 2 気候と生態系 3 世界の気候区分 4 さまざまな気候帯 5 気候変動と異常気象 気温や降水量、風などの気候要素は地域によって異なるため、地球上の生態系はさまざまである。気候の違いは、どのような要因で生まれるのだろうか。また、人々の生活にどのような影響を与えているのだろうか 【第2回考査】	●	●	●
2	7	3 日本の自然環境	1 気候の成り立ち 2 気候と生態系 3 世界の気候区分 南北に細長い日本列島には、山地や平野、亜寒帯から亜熱帯にわたる気候など、多様な自然環境がみられる。日本の自然環境にはどのような特徴があり、その特徴は自然災害とどのように関係しているのだろうか。	●	●	●
		4 地球環境問題 	1 地球環境問題とは 2 さまざまな地球環境問題 3 地球環境問題の解決に向けた取り組み 地球上では、さまざまな環境問題が発生している。地球環境問題を解決して、地球と人類が共存できる持続可能な社会をつくり出すためには、どのような考え方で、どのような取り組みをすればよいのだろうか。	●	●	●
	8	第2章 資源と産業 1 農林水産業 	1 気候の成り立ち 2 農業の地域区分 3 現代世界の農業の現状と課題 4 日本の農業の現状と課題 5 世界と日本の林業 6 気候変動と異常気象 農林水産業は、自然条件の影響を受けるとともに、社会条件の変化に伴って変容してきた。農林水産業の分布や発達にはどのような傾向や規則性がみられるのだろうか。	●	●	●
	9	2 食料問題 	1 世界の食料問題 2 日本の食料問題 食料の分配は、世界全体をみると著しい偏りがある。飽食や飢餓がみられるのは、それぞれどのような地域だろうか。また、その原因は何だろうか 【第3回考査】	●	●	●

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか				評価の観点		
学期	月	学習の項目	学習の内容	知	思	主
3	10	3 エネルギー・鉱産資源 	1 エネルギー資源の種類と利用 2 化石燃料の分布と利用 3 電力の利用 4 鉱産資源の種類と利用 世界のエネルギー・鉱産資源の分布には、大きな偏りがある。エネルギー・鉱産資源は、どのようにして生活や産業に利用され、生産や消費の不均衡をなくすためにどのようなことが行われているのだろうか。	●	●	●
	11	4 資源・エネルギー問題 	1 資源・エネルギーをめぐる課題 2 日本の資源・エネルギー問題 これまでの資源・エネルギー問題は、限りある資源をどのように利用するかという考え方があった。今後、資源・エネルギー問題を解決し、持続可能な社会を実現するためには、どのような考え方が必要なのだろうか。	●	●	●
	12	5 工業 	【第4回考査】 1 工業の発達と種類 2 工業の立地 3 世界の工業地域 4 現代世界の工業の現状と課題 5 日本の工業 工業は、さまざまな製品を生み出し、人々の生活や産業の発展を支えてきた。世界の工業はどのように発展し、現在ではどのような工業分野や地域が中心となり、どのように変わろうとしているのだろうか。	●	●	
	1	6 第3次産業 第3章 交通・通信と観光、貿易	1 経済発展と第3次産業 2 商業の現状と変化 3 商業以外のさまざまな第3次産業	●	●	●
	2	1 交通・通信	1 世界を結ぶ交通 2 日本の交通の特徴 3 情報通信の発達	●	●	●
	2	2 観光	1 余暇の拡大と観光産業 2 日本の観光とその変化 交通と通信の発達などをきっかけとして、日本では、訪日外国人数を増やして観光産業などを盛んにしようとする取り組みがみられる。観光にはどのような特徴や利点があり、どのような課題があるのだろうか。	●	●	●
		3 貿易と経済圏	1 余暇の拡大と観光産業 2 日本の観光とその変化 3 日本の貿易	●	●	●
	3	各単元のまとめ	【第5回考査】  	●	●	

1 この科目の構成について (改行は Alt + Enter)

教科	地理歴史科	科目	日本史探究	単位	3 単位
対象コース	一貫・進学・総合・美術 コース	対象クラス	2 年	1・2組文系, 3 文系, 5, 6組	
使用教科書	日本史探究『詳説日本史』（山川出版社）				
使用副教材	二高の日本史（本校教材）、最新日本史図表2025（第一学習社）				

2 この科目の学習目標・学習方法について

学習目標：この科目を学習して何を身につけてほしいのか

社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家および社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。

学習方法：この科目を学校と家庭でどのように学習すればよいのか

(1) 学校

- 1) 授業用テキストに歴史用語を書き込み、頻出重要文章に正確にマーカーや書き込みをすることが必要です。
- 2) その授業で説明された歴史用語や頻出重要文章を確実に理解するとともに、授業の流れを把握することも必要です。
- 3) 大学共通テストだけでなく、難関私立大学で出題されるレベルの語句にも触れるため、重要語句の整理と深い理解が必要です。

(2) 家庭

- 1) 予習として授業用テキストを読み、頻出重要語句にマーカーをする。
- 2) 授業で教わった内容の復習を欠かさず行う（授業用テキストを見直す。教科書へのマークなど）
- 3) 考査前等に出される課題をしっかりと取り組み、提出する。

3 この科目の評価規準と評価方法について

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
評価規準 (内容の まとめ ごと)	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的にとらえて理解しているとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけようとしている。	我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力をつけようとしている。	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深めようとしている。
評価方法	定期考査／提出課題／発問評価	定期考査／提出課題／発問評価	提出課題／発問評価

4 この科目の学習計画について (改行は Alt + Enter)

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか				評価の観点		
学期	月	学習の項目	学習の内容	知	思	主
1	4	第Ⅰ部 原始・古代 第1章 日本文化のあけぼの 1 文化の始まり  	①人類文化の発生を考え、日本列島における旧石器文化・縄文文化の時代の社会を理解する。 ②打製石器・磨製石器・縄文土器の発掘、竪穴住居の状況など考古学の成果によって教科書の叙述が成り立っていることに気づく。	●	●	●
		2 農耕社会の成立	①大陸からの稲作伝播の様子や地域性の顕著な道具の分布を踏まえて、弥生文化の形成を考察す ②集落・墓の変容から富の蓄積を理解し、小国が形成される過程を東アジア世界との交流と関連づけて考察する。 ③原始社会の特色についての考察を踏まえ、時代を通観する問いを表現する。	●	●	●
		第2章 古墳とヤマト政権 1 古墳文化の展開	①地域の首長の出現から統一国家に至る過程を、古墳の変容からとらえる。 ②ヤマト政権による国家の形成過程について、東アジア世界との関係を踏まえて考察する。 ③古墳時代後期から終末期の変容と、ヤマト政権の政治制度を理解する。	●	●	●
			【第1回考査】			
	5	2 飛鳥の朝廷	①ヤマト政権の権力争いや大陸文化の摂取に着目して、飛鳥時代を考察する。	●	●	●
		第3章 律令国家の形成 1 律令国家への道	①律令国家が成立するまでの政治過程について考察する。 ②律令にもとづく国内統治体制について理解する。	●	●	●
		2 平城京の時代	①律令体制の完成期としての奈良時代を、律令体制の状況を多角的・多面的にとらえて考察する。 ②平城京における政治動向について、土地政策も含めて考察する。	●	●	●
		3 律令国家の文化	①律令国家の成立期に当たる白鳳文化の形成過程について考察する。 ②天平文化における政治性と国際性、国家仏教の展開などに着目して、古代国家の展開を理解する。	●	●	●
	6		【第2回考査】			
		4 律令国家の変容	①平安前期を中心とした古代国家の推移について、東北経営や政治改革、地方統治の変容を踏まえて、律令体制の変質を考察する。 ②東アジアとの関係を踏まえて、唐風文化である弘仁・貞観文化を理解する。	●	●	●
		第4章 貴族政治の展開 1 摂関政治	①藤原氏による摂関政治の成立過程と政治運営への影響について考察する。 ②日本と東アジアとの関係において、民間の貿易や交流が中心となったことをとらえる。	●	●	●

	7	2	国風文化	①大陸文化の消化と末法思想を前提とした新しい貴族文化として、国風文化が展開されたことを理解する。 ②摂関政治の在り方と文化の展開に、どのような関係があるかを考察する。	●	●	●
		3	地方政治の展開と武士	①律令制にもとづく地方統治体制の崩れへの対応が、公領支配の変質、荘園の拡大をもたらした経過を考察する。 ②地方の反乱やその鎮圧など、武士の成長過程について、源氏などを例にとって考察する。	●	●	●
年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか					評価の観点		
学期	月	学習の項目		学習の内容	知	思	主
		第Ⅱ部 中世					
		第5章					
		院政と武士の躍進					
		1 院政の始まり		①院政期前後の土地支配形態を踏まえて、院政期の政治・経済・社会・文化を理解する。 ②外戚関係や人材登用など、後三条天皇が摂関家に遠慮せず改革を進めた背景を考察する。	●	●	●
		2 院政と平氏政権		①政治の動向、国際関係・経済・文化への対応を踏まえて、平氏政権の特性について考察する。 ②古代から中世への変化について考察し、時代を通観する問いを表現する。	●	●	●
		第6章					
		武家政権の成立					
		1 鎌倉幕府の成立		①鎌倉幕府が東国の地方政権から全国的な武家政権に成長していく過程を理解する。 ②鎌倉幕府の成立時期をめぐる諸説に関して、それぞれの根拠を明確にして考察する。	●	●	●
		2 武士の社会		①承久の乱にともなう公武関係の変化に着目して、将軍独裁体制から執権政治の確立に至る過程を理解する。 ②武士の生活と地方支配を通じて、土地に対する実質的な支配権を地頭が掌握するに至った過程を考察する。	●	●	●
		3 モンゴル襲来と幕府の衰退		①モンゴル襲来による政治・経済・文化への影響が、幕府の衰退につながることを理解する。 ②非御家人に対する権限拡大など、幕府勢力が西国に浸透したことの意義を考察する。	●	●	●
2	8	4 鎌倉文化		①庶民や武士の活動が活発化し、鎌倉仏教が成立するなど、文化の新しい気運が生まれたことを理解する。 ②伝統的な公家文化の世界で、有職故実・古典研究などの学問が進展した背景を考察する。	●	●	●
		【第3回考査】					
		第7章					
		武家社会の成長					
	9	1 室町幕府の成立		①南北朝の動乱から室町幕府の成立と安定について、日本諸地域の動向などを踏まえて考察する。 ②琉球・蝦夷ヶ島を含む東アジアとの交流が中世日本にもたらした影響について理解する。	●	●	●
		2 幕府の衰退と庶民の台頭		①庶民の活動が社会秩序の変革の原動力として成長していったことを踏まえて、幕府の動揺や下剋上の風潮を考察する。 ②諸産業の発達による庶民の台頭を踏まえて、中世社会の多様な展開を幅広く理解する。	●	●	●

		3 室町文化	①武家政権の支配の進展や東アジア世界との交流に着目して、武家文化と公家文化および、大陸文化と伝統文化の関わりについて理解する。	●	●	●
	10	4 戦国大名の登場	②諸産業の発達による庶民の台頭を踏まえて、中世社会の多様な展開を幅広く理解する。 ①応仁の乱以降、地方権力として登場した戦国大名や各地に展開した都市について、諸地域の地理的条件と関連づけて考察する。	●	●	●
年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか				評価の観点		
学期	月	学習の項目	学習の内容	知	思	主
		第Ⅲ部 近世 第8章 近世の幕開け				
	11	1 織豊政権	①大航海時代と呼ばれる世界史的背景を踏まえて、ヨーロッパ人の東アジアへの進出とその影響を考察する。	●	●	●
		2 桃山文化	②織田信長の統一事業、豊臣秀吉の天下統一、秀吉の朝鮮侵略と続く織豊政権の特色と意義、その後の時代への影響について理解する。	●	●	●
		第9章 幕藩体制の成立と展開	①新興の大名や都市の豪商の精神を反映した桃山文化について、町衆の生活にも着目し、時代的背景を踏まえて考察する。	●	●	●
		1 幕藩体制の成立	①江戸幕府の成立による幕藩体制の確立過程を理解する。	●	●	●
		2 幕藩社会の構造	②江戸幕府の鎖国政策について、単なる対外貿易の遮断ではないことを理解し、鎖国後の貿易関係の在り方も含めてその影響と歴史的意義について考察する。	●	●	●
		3 幕政の安定	①幕藩体制の確立期の経済・社会を、兵農分離や村落・都市支配などの観点から、多面的・多角的に考察する。	●	●	●
			②被支配身分の特質や、周縁部分に生きる人々の社会的役割について理解する。	●	●	●
			①17世紀後半から18世紀前半までの江戸幕府の安定期について、その平和と秩序の確立の視点で考察する。	●	●	●
			②諸藩における政治の安定化や刷新について、その特色を理解する。	●	●	●
			【第4回考査】			
		4 経済の発展	①幕藩体制の安定期の農業・商工業などの発展について、諸産業相互の関係やその社会的役割を踏まえて考察する。	●	●	●
	12		②全国市場の確立や都市の発達で商品流通が拡大し、各地で風土に応じた特産物が生まれたことを理解する。	●	●	●
		5 元禄文化	①経済の発展と関連して町人文化が形成されたことについて、町人の社会的台頭や幕藩体制の安定と関連させて理解する。	●	●	●
		道徳 10 人や国の不平等をなくそう	②儒学の特色を理解し、その発達が他の学問に与えた影響を考察する。	●	●	●

3	第10章 幕藩体制の動揺					
	1	1 幕政の改革	①農村や都市の変容により幕藩体制が動揺する中、幕府や諸藩がおこなった諸改革の意義とその影響を考察する。 ②幕府や藩の支配に対しておこなわれた百姓一揆や、都市の打ちこわしの実態について理解する。	●	●	●
	2	2 宝暦・天明期の文化	①江戸中期に確立した洋学や国学、新たなかたちで展開する文学・芸能・美術について、社会の変容にともなう幕藩体制の動揺と関連づけて考察する。 ②幕府や藩による武士の教育に加え、民間でも私塾や寺子屋が開かれた背景について理解する。	●	●	●
		【第5回考査】				
	3	3 幕府の衰退と近代への道	①欧米諸国のアジア進出による国際情勢の変化やそれに対する幕政の対処を踏まえて幕府が衰退していく過程を理解する。 ②近代化の基盤の形成について、産業経済面や軍事面などに着目して、雄藩の浮上という地方からの視点から考察する。	●	●	●
		4 化政文化	①化政文化について、学問・思想・教育・文学・美術・生活文化の新たな展開に着目し、江戸と地方の文化的交流にも留意して考察する。 ②都市の民衆を中心とする芸能などが盛んになったことを理解する。	●	●	●

1 この科目の構成について (改行は Alt + Enter)

教科	地理歴史科	科目	歴史演習		単位	1	単位
対象コース	一貫・進学	コース	対象クラス	2	年	1・2組文系	
使用教科書	日本史探究『詳説日本史』（山川出版社）						
使用副教材	二高の日本史（本校教材）、最新日本史図表2026（第一学習社）						

2 この科目の学習目標・学習方法について

学習目標：この科目を学習して何を身につけてほしいのか 社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追及したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家および社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。
学習方法：この科目を学校と家庭でどのように学習すればよいのか (1) 学校 1) 授業用テキストに歴史用語を書き込み、頻出重要文章に正確にマーカーや書き込みをすることが必要です。 2) その授業で説明された歴史用語や頻出重要文章を確実に理解するとともに、授業の流れを把握することも必要です。 3) 大学共通テストだけでなく、難関私立大学で出題されるレベルの語句にも触れるため、重要語句の整理と深い理解が必要です。 (2) 家庭 1) 予習として授業用テキストを読み、頻出重要語句にマーカーをする。 2) 授業で教わった内容の復習を欠かさず行う（授業用テキストを見直す。教科書へのマークなど） 3) 考査前等に出される課題をしっかりと取り組み、提出する。

3 この科目の評価規準と評価方法について

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
評価規準 (内容のまとめごと)	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的にとらえて理解しているとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけようとしている。	我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力をつけようとしている。	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深めようとしている。
評価方法	提出課題／発問評価	提出課題／発問評価	提出課題／発問評価

4 この科目の学習計画について

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか				評価の観点		
学期	月	学習の項目	学習の内容	知	思	主
1	4	■日本史探究の授業を進める。	①日本史探究の授業を行い、内容を理解する。	●	●	●
2	～					
3	2					

1 この科目の構成について

教科	公民	科目	公共	単位	2 単位
対象コース	一貫・進学・総合・美術	コース	対象クラス	2 年	1理, 2理, 3理, 4, 7組
使用教科書	東京書籍「公共」(公共002 - 901)				
使用副教材	「公共ワークノート」(以上、東京書籍)				

2 この科目の学習目標・学習方法について

学習目標：この科目を学習して何を身につけてほしいのか ①現代の諸課題をとらえ考察し、選択・判断するための手がかりとなる概念とともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけます。 ②現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手がかりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実をもとに多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養います。 ③よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としてのあり方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権をになう公民として、自国を愛し、その平和と繁栄をはかることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力しあうことの大切さについての自覚などを深めます。
学習方法：この科目を学校と家庭でどのように学習すればよいのか (1) 学校 授業をよく聞いて、教科書へのマークや書き込みを必ず行ってください。また、授業の内容は必要に応じてメモを取ってください。授業の中で、正解のない問いについて考えを出し合うことがあります。積極的に参加してください。 (2) 家庭 予習・復習は特に必要ありません。定期考査は5回実施しますので、しっかりと勉強して臨んでください。また、日頃から意識的にニュースを見たり新聞を読んだりしてください。理解できない内容だとしても、今、自分が生きる世界で起こっていることについて関心を持ち続けてください。

3 この科目の評価規準と評価方法について

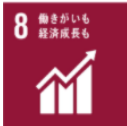
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
評価規準 (内容のまとめごと)	第1部公共のとびら ・現代の諸課題を考察し、選択、判断するための概念や理論を理解している。 ・倫理的主体として活動するために必要となる情報を調べてまとめる技能を身につけている。 ・人間の尊厳と平等、個人の尊重や民主主義、自由、権利など公共的な空間における基本原理について理解している。 第2部自立した主体として社会に参画する私たち ・現実社会の諸事象を理解している。 ・課題の解決のために必要な情報を収集し読み取ることができる。	第1部公共のとびら ・事実を基に多面的、多角的に考察し公正に判断する力が身に付いている。 ・思考実験などを用いて個人と社会との関わりについて多面的、多角的に考察することができている。 第2部自立した主体として社会に参画する私たち ・合意形成や社会参画のために、議論する力が身に付いている。	第1部公共の扉 ・現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度が養われている。 ・人間社会に生きる人間としての在り方生き方に自覚がある。 ・国民主権を担う公民としての自覚がある。 第2部自立した主体として社会に参画する私たち ・自国を愛し、平和と繁栄を図ることの大切さに自覚がある。
評価方法	①定期考査：年5回の定期考査 ②授業への取り組み：授業中の積極的な発言や授業に参加する姿勢 ③提出物：ノート、プリント、レポートの内容や提出状況	①定期考査：年5回の定期考査 ②授業への取り組み：授業中の積極的な発言や授業に参加する姿勢 ③提出物：ノート、プリント、レポートの内容や提出状況	①授業への取り組み：授業中の積極的な発言や授業に参加する姿勢 ②提出物：ノート、プリント、レポートの内容や提出状況

4 この科目の学習計画について

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか				評価の観点		
学期	月	学習の項目	学習の内容	知	思	主
	4月	第1部 公共のとびら				
		第1章 青年期を生きる私たち				
		1 青年期における自己形成	・青年期の特徴やアイデンティティの確立などについて理解します。 ・青年期に生きる自己形成の課題について考察します。 ・青年期における心の動きや自分自身のとらえ方、人間関係などの特徴をふり返る活動をとおして、青年期の特徴や発達課題について理解します。	○		
					○	○
		2 キャリア開発と社会参画	・現代社会を生きるうえでの課題や、キャリア開発の意義などについて理解します。 ・キャリア開発や社会参画の視点から、シティズンシップの意義について考察します。 ・現代社会を生きていくうえで青年期に求められることについて幅広く考えるとともに、キャリア開発や社会参画の意義について考察します。	○		
	5月	第2章 他者とともに生きる人間としてのあり方				
		3 個人として尊重しあう人間	・自己の幸福の追求と他者とのかかわりについて考え、幸福追求が個人の尊重に帰着することを理解します。 ・カントの「自律的な人格」やJ.S.ミルの「他者危害原理」について理解し、人間を個人として尊重することの意味について多面的・多角的に考察します。 ・幸福と個人の尊重に関する課題について、カントやJ.S.ミルの思想を手がかりに、具体的な場面を想像しながら、理解を深めます。	○	○	
						
		4 公共的な空間をつくる人間	・公共的な空間について理解するとともに、アーレントの「活動」やハーバーマスの「コミュニケーション的理性」の意義について理解します。 ・和辻哲郎の「間柄」について理解し、公共的な空間における意義について考察します。 ・「公共」ということばの日常的な用例をあげながら、アーレントやハーバーマス、和辻哲郎のとらえた公共的な空間をになう存在としての人間のあり方について考察します。	○		
		 			○	○
	6月	5 伝統・文化のなかで生きる人間	・丸山真男の考え方などを手がかりに、伝統・文化がものの見方に影響をあたえていることに気づきます。 ・柳田国男の考え方などを手がかりに、日本の「公」と「私」についての伝統的なとらえ方について考察します。 ・日常で使われていることばの意味や用法を取り上げ、それらが伝統や文化と関わっていることに気づくとともに、どのような課題につながっているかを考察します。	○	○	○
		第1回定期考査				
	6月	第3章 公共的な空間における倫理				
		6 功利主義と幸福の原理	・行為選択の理由づけについて目的論と義務論の考え方があること、また、目的論にかかわって功利主義と徳倫理学の考え方を理解します。 ・先人の思想を手がかりに、思考実験を用いて、課題解決の方法について考察します。 ・功利主義の快樂や幸福の考え方について、経済政策や福祉政策などの事例をもとに理解します。 ・人間にとっての善さや幸福を人が徳を備えることに求める徳倫理学の考え方を理解します。	○		
					○	○
	7月					

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか				重視する評価の観点		
学期	月	学習の項目	学習の内容	知	思	主
		7 義務論と公正の原理 	・義務論について、カントの「道徳法則」や「自律」の意味を中心に理解します。 ・不公正の是正について、ロールズの「公正としての正義」の考え方やセンの「潜在能力」の考え方を理解します。 ・義務にもとづいて行動すべき場面を想定しながら、カントの考え方を理解します。 ・不公正の是正に関するロールズやセンの考え方について、社会保障政策などの事例をもとに理解します。	○		
		活用してみよう 生命倫理について考える	・生命科学の進歩にともない進展したエンハンスメント技術とその倫理的課題について理解します。	○	○	○
		活用してみよう 環境倫理について考える	・人間の活動の急速な拡大がもたらしている環境問題について、環境保護と開発のジレンマの観点から理解します。 第2回定期考査	○	○	
		第4章 公共的な空間における基本的原理				
		7 月 8 公共的な空間における協働  	・社会において利害調整が必要であることや、協働の利益をそこなう「囚人のジレンマ」を回避することが必要であることを理解します。 ・利害調整の方法としての市場の働きと国家の役割について理解するとともに、それぞれの課題について考察します。 ・「囚人のジレンマ」について理解するとともに、これを回避するために必要なことを考えます。 ・市場による財やサービスの配分が社会の利害調整の役割を果たしていることに気づきます	○	○	○
		9 民主主義の原理  	・政治の方法である民主主義について、国民主権の観点から理解します。 ・民主主義における多数決の意義と課題、熟議の意義を理解するとともに、間接民主制と直接民主制を組みあわせる意義について考察します。 ・民主主義の手続きや方法の意義について具体例をもとに理解するとともに、その課題について考えます。 ・多数決の意義と限界、多数決が有用である場合と適当でない場合などについて、具体的な場面をあげながら考えます。	○	○	○
		8 月 10 立憲主義の原理 	・法の支配や立憲主義の意義について、中学校社会科での学習もふまえて、基本的人権の尊重や権力の濫用防止の観点から理解します ・民主主義における憲法の役割について、違憲審査や憲法改正手続きに着目して考察します。	○	○	○
		9 月 11 人権保障の原理  	・基本的人権の意味や、自由権から社会権、「新しい人権」にいたる人権保障の歴史的発展を理解します。 ・人権保障の広がりにともない、人種差別・女性差別・障がい者差別の撤廃や、子どもの権利の確立などの取り組みが進められてきたことを理解します。 ・人間の尊厳と平等、基本的人権の尊重の意義について理解するとともに、これらが歴史のなかで発展し今日にいたったことを理解します。	○	○	○

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか				重視する評価の観点		
学期	月	学習の項目	学習の内容	知	思	主
	10月	12 日本国憲法の理念 	・日本国憲法の三つの基本原理について、それぞれの具体的な内容を理解します。 ・日本国憲法における立憲主義と権力分立の意義や、最高法規としての憲法のあり方などについて理解します。 ・立憲主義や権力分立の意義について、日本国憲法の規定をもとに確認します。	○		
		第2部 自立した主体として社会に参加 第1章 民主政治と私たち				
		13 私たちの民主政治 	・身近に存在する政治に気づくとともに、民主主義にかかわる制度や活動について、実際の事象と関連づけて理解します。 ・現代の民主主義の課題について、20世紀の歴史をふまえて考察します。	○		
			・政治の意義や働き、民主主義のさまざまな形について理解するとともに、現代の民主主義の課題について考察します。 第3回定期考査	○		
		14 地方自治のしくみと役割 	・地方自治の本旨としくみなどについて、実際の事象と関連づけて理解します。 ・地方財政のしくみと課題、住民参加の意義について考察します。	○		
			・地方自治の本旨について確認するとともに、地方自治のしくみについて、国の政治と比較して理解します。	○		
		15 国会のしくみと役割 	・三権分立と国会の地位、国会の役割と権限、国会の構成と運営などについて、実際の事象と関連づけて理解します。 ・国会における実際の政治の現状と課題について考察します。 ・三権分立や国会の組織と権限について、関連する日本国憲法の条文を参照して理解します。	○		
			・内閣と国会との関係、内閣の役割と行政組織、行政国家化と行政改革などについて、実際の事象と関連づけて理解します。 ・国会を基盤に行政権を行使する内閣と行政組織、行政権が肥大化した今日の行政の課題について考察します。	○		
		16 内閣のしくみと役割 	・内閣と国会の関係について、関連する日本国憲法の条文を参照して理解します。	○		
		11月	第2章 法の働きと私たち テーマ4 法や規範の意義と役割			
21 法の成立と適用 	・法を制定する際にふまえるべき条件、法の適用と解釈などについて、実際の事象と関連づけて理解します。 ・民事裁判と刑事裁判の手続きの特色について、両者を比較して考察します。 ・法の解釈や判例について、実際の裁判事例をとおして理解します。		○			
	・司法権の独立の意義、三審制などの裁判制度のしくみ、違憲審査権などについて、実際の事象と関連づけて理解します。 ・司法権の独立や三審制の意義、違憲審査権と人権保障とのかわりについて考察します。		○			
25 司法のしくみと役割 			○			

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか				重視する評価の観点		
学期	月	学習の項目	学習の内容	知	思	主
	12月	17 政治参加と選挙  	・違憲審査権の意義について、違憲判決の事例をもとに理解します。 第4回定期考査	○		○
			・政治参加の方法、民主政治と選挙制度、日本の選挙制度と課題などについて、実際の事象と関連づけて理解します。 ・18歳から選挙権を有することをふまえ、投票による政治参加の意義について考察します。	○		○
	1月	18 政党と利益集団	・政党の役割について、政党の政権公約、政党間の議論などを参考にして考察します。	○	○	○
		19 メディアと世論	・民主主義における世論の意義、メディアの世論への影響、インターネット時代の世論形成の現状と課題などについて、実際の事象と関連づけて理解します。	○		
		第3章 経済社会で生きる私たち テーマ5 現代の経済と市場 27 私たちと経済 	・経済活動の意義、経済主体と経済循環、経済活動のグローバル化などについて、実際の事象と関連づけて理解します。 ・家計・企業・政府の相互関係と経済循環について、具体例をもとに考察します。	○		
	2月	29 市場経済のしくみ 	・市場メカニズムの意義や限界と、政府の役割が求められることとの関係について考察します。 ・外部不経済、寡占市場における資源配分のゆがみなどについて、具体例をもとに理解します。	○	○	
		39 労働者の権利 	・労働基準法に定める労働条件の最低基準の内容を調べて、具体的に理解します。	○		○
		40 現代の雇用・労働問題	・雇用環境の変化、現代の労働問題、働きやすい労働環境の実現などについて、実際の事象と関連づけて理解します。 第5回定期考査	○	○	○
	3月	31 金融のしくみと働き	・金融が現在の経済において果たす役割について考察します。	○	○	
		33 財政の働き	・財政の機能と財政政策、財政のしくみと租税法律主義などについて、実際の事象と関連づけて理解します。	○	○	

1 この科目の構成について

教科	公民	科目	公共・政経		単位	3	単位
対象コース	一貫・進学・総合	コース	対象クラス	2 年	1, 2, 3組文系		
使用教科書	東京書籍「公共」(公共002 - 901)						
使用副教材	「公共ワークノート」(以上、東京書籍)						

2 この科目の学習目標・学習方法について

学習目標：この科目を学習して何を身につけてほしいのか ①現代の諸課題をとらえ考察し、選択・判断するための手がかりとなる概念とともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけます。 ②現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手がかりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実をもとに多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養います。 ③よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としてのあり方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権をになう公民として、自国を愛し、その平和と繁栄をはかることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力しあうことの大切さについての自覚などを深めます。							
学習方法：この科目を学校と家庭でどのように学習すればよいのか (1) 学校 授業をよく聞いて、教科書へのマークや書き込みを必ず行ってください。また、授業の内容は必要に応じてメモを取ってください。授業の中で、正解のない問いについて考えを出し合うことがあります。積極的に参加してください。 (2) 家庭 予習・復習は特に必要ありません。定期考査は5回実施しますので、しっかりと勉強して臨んでください。また、日頃から意識的にニュースを見たり新聞を読んだりしてください。理解できない内容だとしても、今、自分が生きる世界で起こっていることについて関心を持ち続けてください。							

3 この科目の評価規準と評価方法について

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
評価規準 (内容のまとめりと)	第1部公共のとびら ・現代の諸課題を考察し、選択、判断するための概念や理論を理解している。 ・倫理的主体として活動するために必要となる情報を調べてまとめる技能を身につけている。 ・人間の尊厳と平等、個人の尊重や民主主義、自由、権利など公共的な空間における基本原理について理解している。 第2部自立した主体として社会に参画する私たち ・現実社会の諸事象を理解している。 ・課題の解決のために必要な情報を収集し読み取ることができる。	第1部公共のとびら ・事実を基に多面的、多角的に考察し公正に判断する力が身に付いている。 ・思考実験などを用いて個人と社会との関わりについて多面的、多角的に考察することができる。 第2部自立した主体として社会に参画する私たち ・合意形成や社会参画のために、議論する力が身に付いている。	第1部公共の扉 ・現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度が養われている。 ・人間社会に生きる人間としての在り方生き方に自覚がある。 ・国民主権を担う公民としての自覚がある。 第2部自立した主体として社会に参画する私たち ・自国を愛し、平和と繁栄を図ることの大切さに自覚がある。
評価方法	①定期考査：年5回の定期考査 ②授業への取り組み：授業中の積極的な発言や授業に参加する姿勢 ③提出物：ノート、プリント、レポートの内容や提出状況	①定期考査：年5回の定期考査 ②授業への取り組み：授業中の積極的な発言や授業に参加する姿勢 ③提出物：ノート、プリント、レポートの内容や提出状況	①授業への取り組み：授業中の積極的な発言や授業に参加する姿勢 ②提出物：ノート、プリント、レポートの内容や提出状況

4 この科目の学習計画について

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか				評価の観点		
学期	月	学習の項目	学習の内容	知	思	主
	4月	第1部 公共のとびら				
		第1章 青年期を生きる私たち				
		1 青年期における自己形成	・青年期の特徴やアイデンティティの確立などについて理解します。 ・青年期に生きる自己形成の課題について考察します。 ・青年期における心の動きや自分自身のとらえ方、人間関係などの特徴をふり返る活動をとおして、青年期の特徴や発達課題について理解します。	○		
		16 平和と公正をすべての人に 17 パートナースhipで目標を達成しよう			○	○
		2 キャリア開発と社会参画	・現代社会を生きるうえでの課題や、キャリア開発の意義などについて理解します。 ・キャリア開発や社会参画の視点から、シティズンシップの意義について考察します。 ・現代社会を生きていくうえで青年期に求められることについて幅広く考えるとともに、キャリア開発や社会参画の意義について考察します。	○		
		4 質の高い教育をみんなに			○	
		第2章 他者とともに生きる人間としてのあり方				
		3 個人として尊重しあう人間	・自己の幸福の追求と他者とのかかわりについて考え、幸福追求が個人の尊重に帰着することを理解します。 ・カントの「自律的な人格」やJ. S. ミルの「他者危害原理」について理解し、人間を個人として尊重することの意味について多面的・多角的に考察します。 ・幸福と個人の尊重に関する課題について、カントやJ. S. ミルの思想を手がかりに、具体的な場面を想像しながら、理解を深めます。	○		
		10 人や国の不平等をなくそう			○	
		4 公共的な空間をつくる人間	・公共的な空間について理解するとともに、アーレントの「活動」やハーバーマスの「コミュニケーション的理性」の意義について理解します。 ・和辻哲郎の「間柄」について理解し、公共的な空間における意義について考察します。 ・「公共」ということばの日常的な用例をあげながら、アーレントやハーバーマス、和辻哲郎のとらえた公共的な空間をになう存在としての人間のあり方について考察します。〈第1回定期考査〉	○		
		17 パートナースhipで目標を達成しよう			○	○
	5月	5 伝統・文化のなかで生きる人間	・丸山真男の考え方などを手がかりに、伝統・文化がものの見方に影響をあたえていることに気づきます。 ・柳田国男の考え方などを手がかりに、日本の「公」と「私」についての伝統的なとらえ方について考察します。 ・日常で使われていることばの意味や用法を取り上げ、それらが伝統や文化と関わっていることに気づくとともに、どのような課題につながっているかを考察します。	○		
		17 パートナースhipで目標を達成しよう			○	
	6月	第3章 公共的な空間における倫理				
		6 功利主義と幸福の原理	・行為選択の理由づけについて目的論と義務論の考え方があること、また、目的論にかかわって功利主義と徳倫理学の考え方を理解します。 ・先人の思想を手がかりに、思考実験を用いて、課題解決の方法について考察します。 ・功利主義の快楽や幸福の考え方について、経済政策や福祉政策などの事例をもとに理解します。 ・人間にとっての善さや幸福を人が徳を備えることに求める徳倫理学の考え方を理解します。	○		
		17 パートナースhipで目標を達成しよう			○	○

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか				重視する評価の観点		
学期	月	学習の項目	学習の内容	知	思	主
	7月	7 義務論と公正の原理	・義務論について、カントの「道徳法則」や「自律」の意味を中心に理解します。	○		
			・不公正の是正について、ロールズの「公正としての正義」の考え方やセンの「潜在能力」の考え方を理解します。		○	
			・義務にもとづいて行動すべき場面を想定しながら、カントの考え方を理解します。	○	○	○
			・不公正の是正に関するロールズやセンの考え方について、社会保障政策などの事例をもとに理解します。 〈第2回定期考査〉	○		○
		活用してみよう 生命倫理について考える	・生命科学の進歩にともない進展したエンハンスメント技術とその倫理的課題について理解します。	○		
		活用してみよう 環境倫理について考える	・人間の活動の急速な拡大がもたらしている環境問題について、環境保護と開発のジレンマの観点から理解します。		○	
		第4章 公共的な空間における基本的原理				
		8 公共的な空間における協働	・社会において利害調整が必要であることや、協働の利益をそこなう「囚人のジレンマ」を回避することが必要であることを理解します。	○		
		 	・利害調整の方法としての市場の働きと国家の役割について理解するとともに、それぞれの課題について考察します。		○	
			・「囚人のジレンマ」について理解するとともに、これを回避するために必要なことを考えます。	○	○	
	8月		・市場による財やサービスの配分が社会の利害調整の役割を果たしていることに気づきます	○		
		9 民主主義の原理	・政治の方法である民主主義について、国民主権の観点から理解します。	○		
		 	・民主主義における多数決の意義と課題、熟議の意義を理解するとともに、間接民主制と直接民主制を組みあわせる意義について考察します。		○	
			・民主主義の手続きや方法の意義について具体例をもとに理解するとともに、その課題について考えます。	○		
	9月		・多数決の意義と限界、多数決が有用である場合と適当でない場合などについて、具体的な場面をあげながら考えます。	○	○	
		10 立憲主義の原理	・法の支配や立憲主義の意義について、中学校社会科での学習もふまえて、基本的人権の尊重や権力の濫用防止の観点から理解します	○		
			・民主主義における憲法の役割について、違憲審査や憲法改正手続きに着目して考察します。	○	○	○
		11 人権保障の原理	・基本的人権の意味や、自由権から社会権、「新しい人権」にいたる人権保障の歴史的発展を理解します。	○		
			・人権保障の広がりにともない、人種差別・女性差別・障がい者差別の撤廃や、子どもの権利の確立などの取り組みが進められてきたことを理解します。	○		
			・人間の尊厳と平等、基本的人権の尊重の意義について理解するとともに、これらが歴史のなかで発展し今日にいたったことを理解します。		○	

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか				重視する評価の観点		
学期	月	学習の項目	学習の内容	知	思	主
	10月	12 日本国憲法の理念	・日本国憲法の三つの基本原理について、それぞれの具体的内容を理解します。	○		
		第2部自立した主体として社会に参加 第1章民主政治と私たち 13 私たちの民主政治	・日本国憲法における立憲主義と権力分立の意義や、最高法規としての憲法のあり方などについて理解します。	○		
			・立憲主義や権力分立の意義について、日本国憲法の規定をもとに確認します。 〈第3回定期考査〉	○	○	○
			・身近に存在する政治に気づくとともに、民主主義にかかわる制度や活動について、実際の事象と関連づけて理解します。	○		
			・現代の民主主義の課題について、20世紀の歴史をふまえて考察します。	○		
			・政治の意義や働き、民主主義のさまざまな形について理解するとともに、現代の民主主義の課題について考察します。	○	○	○
		14 地方自治のしくみと役割	・地方自治の本旨としくみなどについて、実際の事象と関連づけて理解します。	○		
			・地方財政のしくみと課題、住民参加の意義について考察します。	○		
			・地方自治の本旨について確認するとともに、地方自治のしくみについて、国の政治と比較して理解します。	○	○	○
			15 国会のしくみと役割	・三権分立と国会の地位、国会の役割と権限、国会の構成と運営などについて、実際の事象と関連づけて理解します。	○	
	11月	16 内閣のしくみと役割	・国会における実際の政治の現状と課題について考察します。	○		
			・三権分立や国会の組織と権限について、関連する日本国憲法の条文を参照して理解します。	○	○	○
			・内閣と国会との関係、内閣の役割と行政組織、行政国家化と行政改革などについて、実際の事象と関連づけて理解します。	○		
		第2章法の働きと私たち テーマ4法や規範の意義と役割 21 法の成立と適用	・国会を基盤に行政権を行使する内閣と行政組織、行政権が肥大化した今日の行政の課題について考察します。	○		
			・内閣と国会の関係について、関連する日本国憲法の条文を参照して理解します。	○	○	○
			・法を制定する際にふまえるべき条件、法の適用と解釈などについて、実際の事象と関連づけて理解します。	○		
			・民事裁判と刑事裁判の手続きの特色について、両者を比較して考察します。	○	○	
25 司法のしくみと役割	・法の解釈や判例について、実際の裁判事例をとおして理解します。	○	○	○		
	・司法権の独立の意義、三審制などの裁判制度のしくみ、違憲審査権などについて、実際の事象と関連づけて理解します。	○	○	○		
		・司法権の独立や三審制の意義、違憲審査権と人権保障とのかかわりについて考察します。		○		

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか				重視する評価の観点		
学期	月	学習の項目	学習の内容	知	思	主
	12月	17 政治参加と選挙	・違憲審査権の意義について、違憲判決の事例をもとに理解します。 〈第4回定期考査〉 ・政治参加の方法、民主政治と選挙制度、日本の選挙制度と課題などについて、実際の事象と関連づけて理解します。 ・18歳から選挙権を有することをふまえ、投票による政治参加の意義について考察します。			○
				○		
	1月	18 政党と利益集団	・政党の役割について、政党の政権公約、政党間の議論などを参考にして考察します。	○	○	○
		19 メディアと世論	・民主主義における世論の意義、メディアの世論への影響、インターネット時代の世論形成の現状と課題などについて、実際の事象と関連づけて理解します。	○		
		第3章 経済社会で生きる私たち テーマ5 現代の経済と市場				
	2月	27 私たちと経済	・経済活動の意義、経済主体と経済循環、経済活動のグローバル化などについて、実際の事象と関連づけて理解します。 ・家計・企業・政府の相互関係と経済循環について、具体例をもとに考察します。	○	○	
		29 市場経済のしくみ	・市場メカニズムの意義や限界と、政府の役割が求められることとの関係について考察します。	○	○	
			・外部不経済、寡占市場における資源配分のゆがみなどについて、具体例をもとに理解します。 〈第5回定期考査〉	○		
		39 労働者の権利	・労働基準法に定める労働条件の最低基準の内容を調べて、具体的に理解します。	○		○
		40 現代の雇用・労働問題	・雇用環境の変化、現代の労働問題、働きやすい労働環境の実現などについて、実際の事象と関連づけて理解します。	○	○	○
	3月	31 金融のしくみと働き	・金融が現在の経済において果たす役割について考察します。	○	○	
		33 財政の働き	・財政の機能と財政政策、財政のしくみと租税法律主義などについて、実際の事象と関連づけて理解します。	○	○	